

平成 30 年版

消 防 年 報

第 6 3 号

瀬 戸 市 消 防 本 部

はじめに

平成29年2月に発生した埼玉県三芳町の大規模倉庫火災においては、防火対象物における防火管理体制の重要性を再認識しました。施設の管理者及びその関係者は、防災面を含めた防火管理体制の充実強化を図り、火災など災害時の対応に万全を期する必要があります。

自然災害に目を向けると、平成29年7月の九州北部地方や平成30年7月に西日本一帯に甚大な被害をもたらした豪雨災害の他、大雪による道路交通網の遮断、火山の噴火や大型台風の上陸など、次々に発生する自然災害の脅威を目の当たりにし、防災・減災の重要性を再認識させられました。

超高齢化社会が進み社会構造が大きく変化する中、このような大規模災害に対して、防火防災関係機関のみならず、企業や市民などすべての人々が地域の枠組みを越えた協力体制を構築することが必要不可欠となっています。

本市は、今後も消防力及び消防体制の充実強化に努め、災害を未然に防止するだけでなく、万全の備えによって、安全・安心が実感できるまちづくりに取り組んでまいります。

この年報は、平成30年4月1日現在における消防体制並びに、平成29年中の災害状況等を収録し、今後の消防行政の効率的な運営と消防力の強化に資するとともに、消防事情を一般に紹介することを目的に編集したものです。

消防関係者はもとより、市民一人ひとりに活用していただければ幸いです。

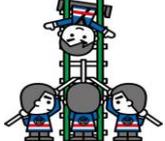
平成30年7月

瀬戸市消防本部

一 目 統 計

平成30年4月1日現在

面積・人口等 自然環境	面積	人口	世帯	気象(H29年中) P50
				
	111.40 km ²	129,900 人	55,388 世帯	年平均気温 15.3℃ 年平均湿度 68.5 % 年間降水量 1,515 mm

消 防 予 算 構 成 人 員	消防予算 P1	署所数 P5	職員数 P6	団員数 P7
				
	12億6,977万円 市民一人当たり 9,774円	消防本部 1 消防署 1 分署 2	130人 (内女性5人)	264人 (内女性24人)

消 防 車 両 水 利	ポンプ車等 P5	特殊車両等 P5	救急車 P5	水利 P16
				
	タンク車 3台 ポンプ車 4台	はしご車等 14台	高規格救急車 5台	消火栓 2,965基 防火水槽等 529基 (その他の水利を含む)

災 害 件 数 (H29年中)	火災 P27	主な火災原因 P28	救急 P37	救助 P45
				
	38件 出火率2.9件/万人	たばこ 7件 こんろ 5件 ストーブ 3件	出動件数5,340件 搬送人員5,077人	出動件数64件 救助人員21人

予 防 消 防 関 係 団 体	防火対象物 P17	査察実施率 P18	危険物施設 P20	消防関係団体 P22-25
				危険物安全協会 321 会 員 自衛消防連絡協議会 16 事業所 婦人防火クラブ 10 クラブ 少年消防クラブ 30 クラブ 幼年消防クラブ 26 クラブ 瀬戸防火防災協会連合会 20 連 区 自警団 5 団
	4,617 件	20.6%	製造所 3件 貯蔵所 222件 取扱所 110件	

平成29年実績値

指標	単位	初期値	実績値
出火率	件	3.8	2.9

※ 出火率とは、人口1万人当たりの火災件数をいう。(P27参照)

※ 初期値は、平成18年から平成27年までの平均値。

指標	単位	初期値	実績値
救命率	%	42.3	16.7

※ 救命率とは、目撃のある突然心肺停止及び除細動が必要な心電図波形(Vf・脈のないVT)である救急患者のうち、1か月後に社会復帰できた割合をいう。(P43参照)

※ 初期値は、平成18年から平成27年までの救命率。

指標(年度)	単位	初期値	実績値
消防団員数	人	253	268

※ 初期値は、平成27年度の数値。実績値は、平成30年3月31日現在(4月1日現在264名)

指標(年度)	単位	初期値	実績値
消防水利の充足率	%	98.6	98.6

※ 初期値は、平成27年度の数値。

(P16参照)

指標	単位	初期値	実績値
住宅火災における 損害額	千円	47,941	20,147

※ 初期値は、平成27年中の数値。

(P34参照)

平成29年度のトピックス

1 災害時協力事業所登録制度を開始

民間の事業所が持っているスキル、資機材、施設などを地域住民と消防機関に提供してもらい、地域の災害対応能力を向上する制度です。

平成30年6月現在、32件の事業所を認定しました。



2 高規格の救急自動車を増強配備

市内に配備する高規格救急自動車を、これまでの4台から5台に増強しました。

新型車両は、救命率の向上のため最新資機材を積載し、ボディに高輝度の反射材を採用することで視認性と安全性を向上させ、迅速で高度な救命活動を目指します。



3 祖母懐分団車を更新

平成10年から運用していた祖母懐分団車を最新の車両に更新しました。

新型車両は、電子制御の消防ポンプのほか、LED赤色警光灯、照明資器材、ホース延長用資器材等を装備しており、災害時はもちろんのこと、平時における消防団活動においても迅速で安全な活動を可能にした最新鋭の車両です。



4 住宅防火普及員認定制度の開始

住宅火災による死傷者の多くが高齢者であることから、地域単位での防火防災体制が求められています。

高齢者と接する機会の多い民生委員、地域住民および福祉関係者などを対象に、防火防災に関する講習を行い、住宅防火普及員に認定しました。（平成30年6月現在659名）



5 瀬戸市危険物安全協会創立60周年記念事業の開催

近年、直火に触れる機会が少なくなった幼少年を対象に、火の便利さや暖かさなどを学んでもらうため、全国でも類を見ない「夏祭り・こども火祭り」を開催し2,000人以上の親子が楽しいひとときを過ごしました。

また、創立60周年を記念して、消防活動用資機材（ドローン、三輪バイク）が消防本部に寄贈されました。



6 瀬戸市消防本部旗、瀬戸市消防団旗などを更新

瀬戸市消防本部及び瀬戸市消防団の旗を更新しました。両団体旗は、昭和30年頃から使用しており、経年により老朽化していましたが、「消防行政に寄与するために使用していただきたい。」との匿名による寄付を受け新しく作り直しました。

また、両団体旗のほか、平成28年度に発足した瀬戸市消防団女性分団の分団旗も今回の寄付により新たに作成しました。



目 次

【第1編】消防情勢（P1～10）

・5年間の市当初予算等と消防費	1
・平成30年度一般会計当初予算額	1
・平成30年度消防費の市民負担額	1
・消防本部・消防署・消防団組織図	2
・消防本部消防課の事務分掌	3
・消防署の事務分掌	4
・消防力の整備指針と現有消防力	5
・消防職員数	6
・消防団員数	7
・消防職員・団員数の推移	7
・消防職員・団員の平均年齢の推移	7
・消防職員派遣教養科目別実施状況	8
・消防職員研修実施状況	8
・消防職員・団員公務災害等発生状況	8
・消防本部車両運用状況	9
・消防団活動状況	10
・ガンバレ消防団応援事業所	10

【第2編】消防施設（P11～16）

・消防庁舎等設置状況	11
・消防車両等配備状況	12
・主な消防機器保有状況	14
・水防用資機材備蓄状況	15
・消防水利設置状況	16

【第3編】予防（P17～26）

・連区別防火対象物状況	17
・中高層建築物・地階用途別状況	18
・査察実施率の推移	18
・防火管理者選任状況	19
・防火管理講習実施状況	19
・危険物施設等連区別設置状況	20
・危険物施設に関する申請等の件数	20
・危険物施設等の10年間の推移	21

消防関係団体

・瀬戸防火防災協会連合会	22
・街頭消火器設置整備事業	22
・瀬戸市危険物安全協会	23
・瀬戸市自衛消防連絡協議会	23
・自警団	23
・瀬戸市婦人消防隊連絡協議会	24
・瀬戸市少年消防クラブ連絡協議会	24
・瀬戸市幼年消防クラブ	25
・防災会	25
・安心・安全トピックス（わんわん消防隊、救急安心たまご）	26

【第4編】火災統計（P27～36）

・平成29年中の火災発生状況と前年との比較	27
・原因別・用途別火災状況	28
・初期消火実施状況調	28
・出火原因別（発火源・経過・着火物）火災発生件数	29
・署所別・連区別火災状況	30
・曜日別・月別火災状況	31
・天候別火災状況	31
・時間別火災状況	32
・10年間の火災状況	33
・10年間の出火件数と住宅火災件数及び損害額の推移	33
・10年間の住宅火災の状況	34
・10年間の住宅火災における出火原因別件数	34
・10年間の住宅火災における時間別死傷者数	35
・10年間の住宅火災における年齢別死傷者数	35
・10年間の主な火災	36

【第5編】救急・救助統計（P37～46）

・事故種別救急出動件数及び搬送人員	37
・署所別救急出動件数	38
・連区別の老年人口率と救急搬送率	38
・曜日別・月別救急出動件数	39
・時間別救急出動件数	39
・傷病程度別搬送人員	40
・年齢区分別搬送人員	40
・急病にかかる疾病分類別搬送人員調	41
・事故種別医療機関別搬送人員調	41
・救急隊員の行った応急処置状況	42
・応急手当普及啓発実施状況	42
・救命率の推移	43
・バイスタンダーCPR実施状況	43
・AEDステーション認定事業所数	43
・10年間の現場到着平均所要時間の推移	43
・10年間の救急出動件数	44
・急病・交通・一般負傷の出動件数10年間の推移	44
・事故別救助出動状況	45
・連区別救助出動件数	45
・発生場所別救助人員	46
・10年間の救助出動件数	46

【第6編】通信・気象（P47～50）

・消防指令センターの主な施設状況	47
・月別119番受信状況（受信時の種別）	47
・無線施設状況	48
・月別気象状況	50
・天候別日数調・月別気温状況・月別湿度状況	50

【第7編】資料（P51～55）

・消防本部の沿革	51
・消防相互応援協定	55

市 勢 概 要

瀬戸市は、名古屋市の北東約20kmに位置し、周囲を標高100～300mの小高い山々に囲まれ、気候も温暖なまちで、「せともの（瀬戸物）」という言葉が、やきものの代名詞として広く知られています。

良質で豊富な陶土に恵まれたこの地で、先人たちは新しい技術や文化を柔軟に取り入れ、「せとものまち」を発展させてきました。

長年受け継がれてきたやきものづくりの卓越した技は、多種多様なやきものづくりに繋がり、陶器と磁器が共存する稀有な産地であるだけでなく、ノベルティ（置物・装飾品）、ファインセラミックスなどが生産され、今も新しいものづくりが続けられています。

年別	項目	変 遷	面 積 (km ²)	人 口 (人)	世 帯
昭和 4年		市 制 施 行	28.01	31,276	6,916
昭和26年		水野村合併	50.67	54,779	11,670
昭和30年		幡山村合併	71.36	64,681	13,588
昭和34年		品野町合併	110.34	79,449	16,636
平成30年		4月1日現在	111.40	129,900	55,388

